

診療局：内科《血液内科》

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
理事兼副病院長兼主任部長 兼臨床研修センター長 兼薬剤管理センター長 兼輸血・細胞治療センター長	烏野 隆博 (8月退職)
部 長 兼輸血・細胞治療センター長(9月から)	釜江 剛
医 長	町田 朋久
副医長	上條 公守
非常勤医員	馬越 陽大

＜特色と概要＞

当院は泉南地域における唯一の日本血液学会認定血液研修施設であり、地域における血液疾患の診療を積極的に引き受けるとともに研修医や専攻医の指導に当たってきた。また、日本造血・免疫細胞療法学会の定める非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科であり、血液悪性疾患や造血不全に対し自家末梢血幹細胞移植や血縁者間同種造血幹細胞移植のみならず、日本臍帯血バンクおよび日本骨髄バンクを介した非血縁者間造血幹細胞移植を実施してきた。1991年から2009年までに施行したすべての移植患者数は319名である。2009年以降、常勤医師の減少により移植医療を休止していたが、2015年度から移植治療を再開し、2024年度には12例実施した。2023年10月にはCAR-T細胞(キメラ抗原受容体-T細胞)療法の一つであるキムリアの認定施設となり、2024年度は5例実施した。血液疾患の診療は医師だけでなくチームとしての実力が問われるようになってきており、看護師、薬剤師、理学療法士、検査技師と合同で他職種合同カンファレンスを行い、チームとしてより良い診療の実践を心がけている。

【診療体制】

血液専門医の常勤医4人(その内日本造血・免疫細胞療法学会認定医2名)で外来診療を担当し、地域の医療機関からの紹介患者の診療や外来化学療法、輸血療法など多くの患者の診療にあたっている。このように医療体制および診療体制が整ったことで近隣からの紹介患者も増加している。この他、他科からの止血異常や化学療法の合併症等に関するコンサルトにも随時対応した。

入院診療はスタッフ全員の5名で担当した。20床の割り当て病床で稼働しているが、患者数の増加に伴い常時20床を超え、延べ患者数は9,387名であった。

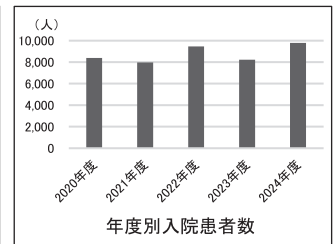
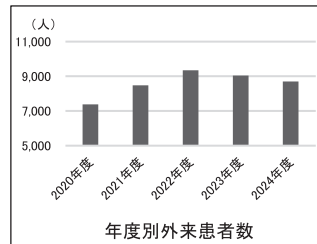
臨床研究・教育にも力を入れ、多くの講演会や学会発表を行っている。論文としては英文原著論文:1編、邦文論文

は初期研修医による1編の論文発表を行った。また、専攻医、初期研修医による学会発表を4件行った。

＜実績＞

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2020年度	7,375	30.3	8,393	23.0
2021年度	8,474	35.0	7,966	21.8
2022年度	9,342	38.4	9,449	25.9
2023年度	9,039	37.2	8,219	22.5
2024年度	8,701	35.8	9,783	26.8



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位 50 まで)

(期間 2024/4/1-2025/3/31 退院)

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	C833	87
急性骨髄芽球性白血病[AML]	C920	55
多発性骨髄腫	C900	30
非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫, 詳細不明	C859	19
肺炎, 詳細不明	J189	16
骨髄異形成症候群, 詳細不明	D469	14
急性リンパ芽球性白血病[ALL]	C910	10
食物及び吐物による肺臓炎	J690	10
エマージェンシーコードU07.1	U071	8
尿路感染症, 部位不明	N390	7
特発性血小板減少性紫斑病	D693	7
多系統異形成を伴う急性骨髄性白血病	C928	7
血液提供者<ドナー>	Z520	7
骨髄移植の拒絶反応	T860	6
無形成性貧血, 詳細不明	D619	5
細菌性肺炎, 詳細不明	J159	4
血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	C865	4
ろく濾>胞性リンパ腫, 詳細不明	C829	4
気管支肺炎, 詳細不明	J180	4
マントル細胞リンパ腫	C831	4
節外性粘膜関連リンパ組織辺縁帯B細胞性リンパ腫[MALTリンパ腫]	C884	4
後天性凝固因子欠乏症	D684	4
末梢性T細胞リンパ腫, 他に分類されないもの	C844	3
その他の呼吸器症状を伴うインフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離されないもの	J111	3
感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎	A090	3
その他の自己免疫性溶血性貧血	D591	3
急性前骨髄球性白血病[PML]	C924	2
その他の(古典的)ホジキン<Hodgkin>リンパ腫	C817	2
体液量減少(症)	E86	2
貧血, 詳細不明	D649	2
非ろく濾>胞性(びまん性)リンパ腫, 詳細不明	C839	2
細菌感染症, 詳細不明	A499	2
部位不明のその他の細菌感染症	A498	2
B細胞性慢性リンパ球性白血病	C911	2
その他の連鎖球菌性敗血症	A408	2
伝染性単核症, 詳細不明	B279	1
その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>, その他の明示された部位	D487	1
肺炎連鎖球菌による肺炎	J13	1
形質細胞性白血病	C901	1
遺伝性第Ⅷ因子欠乏症	D66	1

主病名 (ICD10コード名)	ICD10	件数
気管支炎, 急性又は慢性と明示されないもの	J40	1
尿路結石, 詳細不明	N209	1
その他のアミロイドーシス<アミロイド症>	E858	1
胸部<郭>の骨折, 下背部及び骨盤部の骨折を伴うもの;閉鎖性	T0210	1
限局性浮腫	R600	1
うつ病エピソード, 詳細不明	F329	1
孤立性形質細胞腫	C903	1
腸, 腹膜及び腸間膜リンパ節の結核	A183	1
無顆粒球症	D70	1
尿閉	R33	1

＜今年度の成果と反省点＞

1. 今年度の大きな成果は、CAR-T細胞療法を5件行ったことである。CAR-T療法には医師、看護師、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師それぞれの専門性を活かしたチーム医療が不可欠であり、大きな成果と捉えている。
2. 同種造血幹細胞移植術は目標件数を実施した。

＜来年度への抱負＞

スタッフの減少により外来枠を減らざるをえない状況となっている。泉南地域は血液専門医数が大阪府平均の半分以下、全国平均の約半数であることから、地域の先生方とより連携を深め、専門的治療が必要な患者さんに効率よく医療を提供できる体制を作りたい。